

結果の分析と課題

<国 語>

2年の定着度調査結果

	はなしをききとる	かん字をよむ	かん字をかく	ことばのがくしゅう	ものがたりをよみとる	せつめい文をよみとる	がっこうあそびをする	文しょうをかく
目標値	75.0	90.0	90.0	90.0	65.0	70.0	57.5	83.3
校内結果	82.5	99.3	93.0	95.4	67.0	76.5	62.6	88.9

3年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	言葉の学習	物語の読み取り	説明文読み取り	調べたことを発表する	作文
目標値	85.0	90.0	73.8	80.0	63.3	73.3	35.0	73.3
校内結果	91.1	97.4	83.6	88.2	67.4	79.5	27.6	62.4

4年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	言葉の学習	物語の読み取り	説明文読み取り	調べたことを発表する	作文
目標値	75.0	86.3	70.0	58.8	70.0	63.3	55.0	63.8
校内結果	82.6	94.7	72.5	59.3	72.0	67.7	61.2	68.8

5年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	言葉の学習	物語の読み取り	説明文読み取り	ポスター作り	作文
目標値	77.1	88.8	65.0	60.0	75.0	76.7	42.5	61.3
校内結果	77.0	98.4	82.4	60.5	86.8	80.0	45.5	71.1

6年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	言葉の学習	物語の読み取り	説明文読み取り	案内を作る	作文
目標値	71.7	78.8	55.0	58.8	72.5	73.3	45.0	75.0
校内結果	84.0	91.7	67.6	70.2	82.4	88.9	49.4	90.7

7年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	文法・語句の知識	説明文読み取り	文学作品読み取り	話し合い	作文
目標値	71.3	73.8	66.3	65.0	52.5	68.8	41.7	54.0
校内結果	74.7	83.8	63.9	75.2	58.8	76.2	48.2	64.2

8年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	文法・語句の知識	説明文読み取り	文学作品読み取り	文をわかりやすく書き直す	作文
目標値	77.5	81.3	71.3	72.0	57.5	48.8	50.0	49.0
校内結果	85.9	89.0	80.6	71.2	61.1	54.4	68.4	53.6

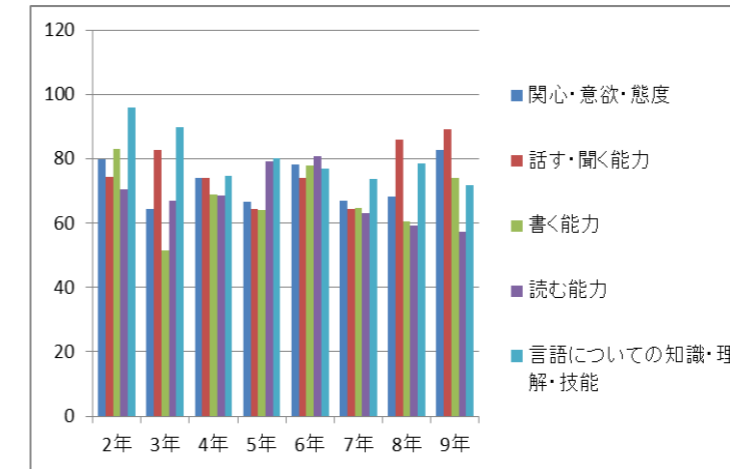
9年の定着度調査結果

	内容聞き取り	漢字の読み	漢字の書き	文法・語句の知識	説明文読み取り	文学作品読み取り	レポートを書く	作文
目標値	85.0	76.3	57.5	58.8	52.5	50.0	56.7	63.0
校内結果	93.0	88.7	66.2	61.5	54.4	54.4	72.5	73.1

*目標値とは、学習指導要領に示された内容について学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合です。

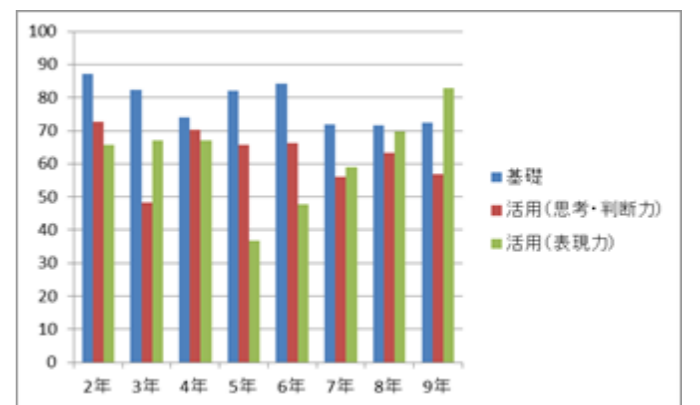
結果概要

どの学年も全国の平均正答率を上回りました。6～9年生は、区の平均正答率も上回っています。しかし、学年によって学力の定着度に大きな差が見られます。平成29年度の課題であった「話すこと・聞くこと」に対し、単元を通して、授業の導入や豊葉の杜タイムを利用し、習熟度の定着を図ったことで、ほぼどの学年も目標値・全国平均値を上回る結果になりました。



各学年の観点別正答率です。2年生、4年生から9年生はどの観点も目標値を上回っています。区平均正答率を下回った観点は、「国語への関心・意欲・態度」（3～5年）、「話す・聞く能力」（2～5年）、「書く能力」（3～5年）、「読む能力」（2～5年）です。本校では、引き続き「話す・聞く能力」が課題であることが分かります。

右は学年ごとの基礎・活用の観点から見た正答率です。各学年の平均正答率は、合計24観点中、14観点で区の平均正答率を上回りました。区の平均正答率を下回ったのは次の10観点です。2年生「基礎」「活用（思考・判断力）」3年生「基礎」「活用（思考・判断力）（表現）」4年生「基礎」「活用（思考・判断力）（表現）」5年生「基礎」「活用（思考・判断力）（表現）」です。



課題の原因と身に付けさせたい力

国語科として授業内で身に付けた「話す・聞く」の力を活用する場面が乏しいことが原因であると考えられます。昨年度に引き続きスピーチやインタビュー活動などを様々な教科で行い、効果的な話し方や聞き方を意識して取組をする必要があります。また、「基礎」のさらなる定着を図り、「活用」の力の向上を目指します。

課題解決のための具体的な方策

- 義務教育学校のよさを生かし、「話す・聞く」ことの指導を授業で重点的に扱います。
- 2年生…（話）様々な相手に話す経験を重ねていく。
（聞）大切なことを落とさないように聞く。
 - 3、4年生…（話）相手にきちんと伝える意識をもたせ、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話す。
（聞）互いの意見の共通点や相違点に着目しながら話を聞く。
 - 5、6年生…（話）互いの立場を明確にして話し合いを行う。
（聞）異なる立場の意見を聞き、話し合うことによって自分の考えを広げ、深める。
 - 7年生…（話）全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成する。
（聞）自分の考えとの共通点や相違点を整理する。
 - 8年生…（話）論理的な構成や展開を考える。
（聞）話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する。
 - 9年生…（話）語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。
（聞）自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりする。

基礎的な力を伸ばすために、「言葉の特徴やきまり」に関する事項を重点的に指導していきます。特に、3、4年生では教科担任制を生かして言語の時間の充実を図ります。言語の時間では、授業の始めに語句調べの時間を取り、辞書引きを行うことで語彙を増やしていきます。その他の学年では、豊葉の杜タイム等を効果的に使い、繰り返し指導できるようにしていきます。

成果指標

- 全学年「話す・聞く力」について区の平均正答率を+3%上回る。
- 全学年「書く能力」について区の平均正答率を上回る。
- 全学年「基礎的な力」について区の平均正答率を+3%上回る。

<社 会>

4年の定着度調査結果

	学校のまわりの様子	市の様子	買 物 調 べ	店ではたらく人	工 場 の 仕 事
目標値	67.0	65.0	72.5	69.0	62.5
校内結果	77.2	62.2	73.9	73.6	56.4

5年の定着度調査結果

	安全なくらし-火事	安全なくらし-事故	くらしを支える水	ごみの処理と利用	地域の発展に尽くした人々	地図の見方	県の様子
目標値	60.0	68.8	68.8	57.5	50.0	61.7	61.0
校内結果	57.9	76.3	70.8	55.9	55.4	59.6	71.4

6年の定着度調査結果

	国土	人々の暮らし	農業と水産業	食料生産	自動車	工業生産と地域	貿易	情報	環境
目標値	68.3	62.5	58.8	78.3	63.8	57.5	55.0	72.5	66.7
校内結果	73.5	65.4	60.6	84.6	80.1	57.1	60.7	86.5	78.2

7年の定着度調査結果

	縄文~平安	鎌倉~室町	安土桃山~江戸	明治~昭和	日本の政治	日本国憲法	世界の中の日本
目標値	69.0	50.0	55.0	53.1	66.7	60.0	55.0
校内結果	81.3	55.1	61.2	51.8	70.2	68.6	64.5

8年の定着度調査結果

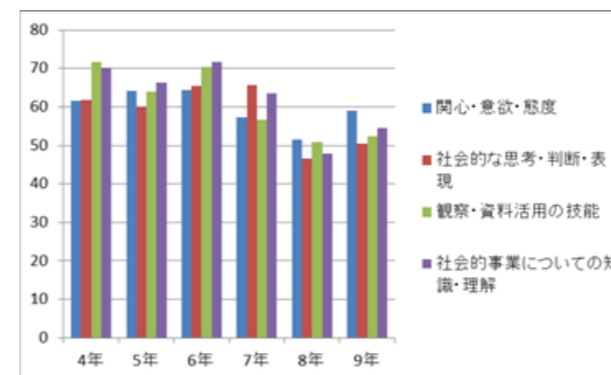
	地球のすがた	世界の人々の生活環境	世界の諸地域	古墳時代	中世の日本	飛鳥~平安時代
目標値	48.3	51.7	44.3	57.0	56.3	48.0
内結果	60.2	46.9	43.1	50.5	49.3	44.3

9年の定着度調査結果

	日本地域構成	日本地域的特色	日本諸地域	身近な地域	近世の日本	近代の日本
目標値	66.7	53.3	60.0	67.5	53.5	45.0
校内結果	65.5	51.6	59.6	65.2	52.6	37.0

結果概要

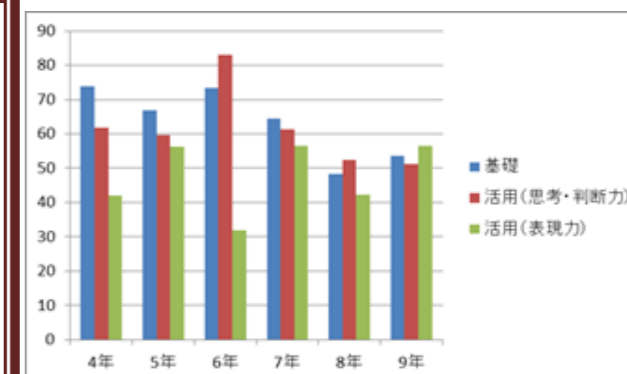
平成29年度は、資料活用に課題があったため、グラフの読み取り方や地図帳の使い方を丁寧に指導しました。その結果、4、5、6年生ではすべての領域で区の平均正答率を上回っています。7、8、9年生では、基礎・活用の領域で区や全国の平均正答率を上回っています。



各学年の観点別正答率です。4～7年生は目標値を全ての観点で上回っています。また、6、7年生は、区の平均値も全ての観点で上回っています。「社会的な事象についての知識・理解」と「社会的な思考・判断・表現」が区の平均正答率をやや下回った学年があります。また、「社会的事象への関心・意欲・態度」を養うことが課題です。

右は学年毎の基礎・活用の観点から見た正答率です。

4、5、6、7年生は「基礎」「活用」の両方とも目標値を上回っています。また、5、6、7年生は「基礎」「活用」の両方とも、区の平均正答率を上回っています。8、9年生の、「活用」においては目標値も区の平均正答率も上回っていますが、「基礎」の方が目標値および区の平均正答率を下回っており、課題が見られます。



課題の原因と身に付けさせたい力

4～9年までを見て、全体的に思考・判断・表現する力に課題があります。4～6年では、地図や資料の読み方がきちんと身に付いていないため、思考する力にも課題が見られました。7～9年では、知識や調べたことを活用して歴史的な事象を考察する活動が少なかったことが原因と考えます。

社会科として身に付けさせたい力は、資料から読み取った内容や学習した用語を使って自分の考えが書けるようにすることです。また、自分だったらどのように社会に貢献していくかなど学習内容を自己の課題として捉えられるようにしていきたいです。さらに、友達と意見交流をすることで、考えを深め、思考力・判断力・表現力を高めていきたいと考えます。

課題解決のための具体的な方策

4、5、6年生では、地図や資料の読み取り方を引き続き丁寧に行うことと合わせ、読み取ったことをどのように生かして社会事象を捉えたらよいか考えられるようにします。7、8、9年生では、歴史的な分野の基礎的・基本的な社会的事象についての知識と合わせて考えたことやまとめた内容を活用し、そこからさらに思考する力を身に付けさせます。問題解決的な学習を単元計画の中に意図的に取り入れ、調べ、考え、グループでの学び合いの場を設けることで、社会的事象についての考えを表現する力を育成します。また、授業の中で資料の読み取りを多く行い、各単元の最後には、まとめを記述する時間を設けて、思考力や判断力を育てていきます。

成果指標

全学年の「知識・理解」について区の平均正答率を3%上回る。
全学年の「基礎的な力」について区の平均正答率を5%上回る。

<算 数・数 学>

2年の定着度調査結果

	120までのかず	たしざん	ひきざん	3つのかずのけいざん	とけい	ながさ・かさ	かたち
目標値	97.2	81.7	74.0	86.3	80.0	85.0	66.3
校内結果	93.0	86.1	76.9	88.4	84.7	85.8	67.9

3年の定着度調査結果

	計算	10000までの数	たし算・ひき算	かけ算	時こくと時間	長さ・かさ	三角形と四角形	はこの形
目標値	90.0	76.0	77.5	71.1	70.0	67.0	83.3	60.0
校内結果	94.2	75.8	74.7	72.6	73.3	67.7	77.9	61.0

4年の定着度調査結果

	計算	大きい数	たし算・ひき算	かけ算	わり算	時こくと時間	長さ・重さ	いろいろな形	□を使った式	ぼうグラフと表
目標値	90.0	75.0	75.0	70.0	71.4	80.0	71.3	73.3	73.3	85.0
校内結果	97.3	78.9	83.5	72.7	74.0	84.0	76.6	80.5	81.6	89.4

5年の定着度調査結果

	計算	億と兆・概数	わり算	小数	分数	角の大きさ	面積	いろいろな形	計算のきまり・変り方調べ	折れ線グラフと表
目標値	82.5	60.0	71.3	75.0	77.5	75.0	46・7	61.3	57.5	73.3
校内結果	82.1	60.7	74.2	81.2	80.0	87.9	34.4	52.9	58.9	69.8

6年の定着度調査結果

	計算の復習	整数の仲間分け	分数と小数	小数の計算	分数の計算	単位あたりの大きさ	面積と体積	図形の角・円周	合同・立体	百分率とグラフ
目標値	75.0	55.0	68.3	66.4	80.0	60.0	73.8	76.7	71.7	45.0
校内結果	84.0	61.2	73.9	71.8	87.5	76.3	87.8	81.6	79.1	42.5

7年の定着度調査結果

	小数・分数の計算	整数の性質	面積と体積	平均	平面図形	百分率	場合の数	比と比例・反比例	文字と式	グラフの読み取り
目標値	77.5	80.0	76.7	66.7	70.0	65.0	72.5	72.5	82.5	58.3
校内結果	79.5	85.2	83.6	69.1	73.2	70.9	82.8	76.8	81.1	67.1

8年の定着度調査結果

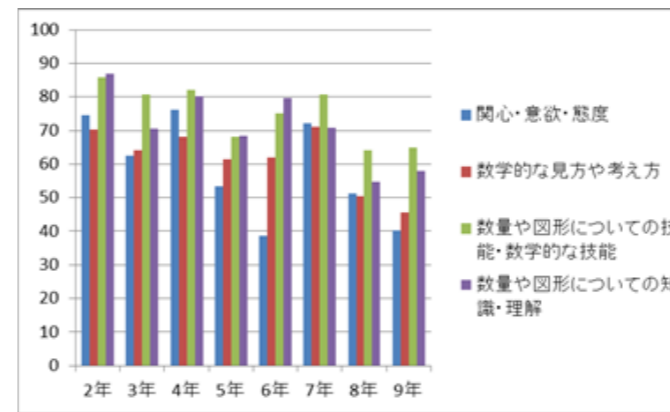
	計算の復習	正負の数	文字式	1次方程式	比例・反比例	平面図形	空間図形	資料の散らばりと代表値
目標値	75.0	68.8	61.7	64.0	51.1	60.0	56.0	49.0
校内結果	79.6	69.97	67.3	67.2	50.6	70.4	57.3	52.8

9年の定着度調査結果

	計算の復習	式の計算	連立方程式	1次関数	図形の性質	証明	確率
目標値	71.7	72.0	60.0	52.9	60.0	53.3	63.0
校内結果	76.9	76.4	61.8	55.6	56.7	61.8	63.8

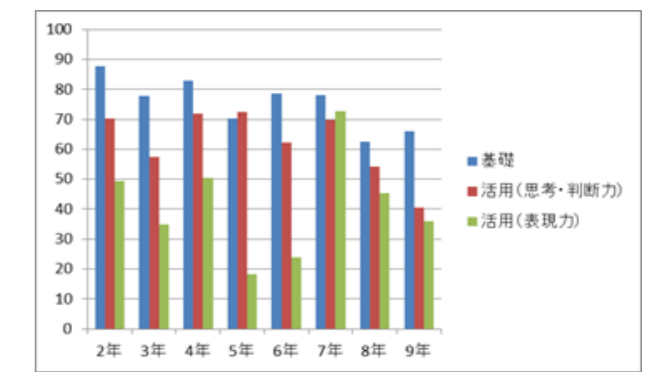
結果概要

平成29年度の課題であった「図形」「数量関係」「基礎的な力」は、ほとんどの学年で目標値を上回りました。どの学年も授業の始めや宿題などで、基礎的・基本的な学力を反復して行い、学力の向上を図った結果であると考えます。しかし、学年によって定着度に大きな差が見られることが、今年度の課題です。



各学年の観点別正答率です。どの観点もおおむね目標値を上回っています。区の平均正答率を下回った観点は「算数・数学への関心・意欲・態度」(2、9年)、「数学的な見方・考え方」(2～5年、8、9年)「数量や図形についての技能・数学的な技能」(2、3、8、9年)「数量や図形についての知識・理解」(2、3、5、8、9年)です。本校では、「数学的な見方・考え方」の力の向上が課題であることが分かります。

右は学年ごとの基礎・活用の観点から見た正答率です。ほとんどの学年で「基礎」は目標値を上回っています。区の平均正答率を下回ったのは「基礎」(2、3、5、8、9年)「活用」(2、3、4、8、9年)でした。今年度も「基礎」の定着に課題が見られます。



課題の原因と身に付けさせたい力

今年度も基本的・基礎的な知識及び技能の習得に課題が見られます。学習したことを確実に定着させることが不十分です。そのために前期課程では習熟度別少人数指導を活用したり、宿題や補習を設けたりして学力の向上を図っています。東京都より出ているベーシックドリルなどを活用し、繰り返し四則演算などの基礎学習を図ります。さらに、具体物を用いた、数学的活動を多く取り入れ、思考力の素地を養う授業を意識的に行っていきます。後期課程では、関数関係を見いだしたり、数の概念を深める学習を意図的に取り入れたりしていきます。

解決のための具体的な方策

義務教育学校のよさを生かし、1年生から9年生まで学習を積み重ねていくスパイラル学習を行います。

<基礎的・基本的な知識・技能>

- 1年生…整数の加法、減法
- 2年生…乗法
- 3年生…除法
- 4年生…四則演算を理解し、正しく計算すること
- 5年生…小数、分数の加法減法、割合
- 6年生…小数、分数の乗法除法、速さ
- 7年生…正の数・負の数、文字を用いた式
- 8年生…連立方程式
- 9年生…平方根、関数関係

<図形領域>

- 1年生…積木など具体物を十分操作し、数学的活動を行うこと
- 2年生…三角形や四角形、箱の概念を理解すること
- 3年生…円や球の概念、身の回りから具体物を探すこと
- 4年生…垂直や平行、身の回りの具体物の関係
- 5年生…多角形や合同、日常生活で活用する力
- 6年生…対称、拡大や縮小、一つ一つの図形の特徴を捉えること

数量関係では、数値の意味を丁寧に読み取る指導を行います。そのためには、問題文にある数値が何を意味しているのか確認し、具体物を用いたり、図や表に表したりする活動を取り入れていきます。後期課程では、見直しをもって関数関係を見いだす活動を取り入れ、考察する力を育てていきます。さらに、数の概念を深めるために、目的に応じて計算したり、式を変形したりする力を身に付けさせていきます。

成果指標

全学年の「基礎的な力」について区の平均正答率を+3パーセント上回る。

<理科>

4年の定着度調査結果

	身近な自然観察	植物の育ち方	こん虫の育ち方	こん虫のからだのつくり	太陽と地面の様子	光の性質	風やゴムのはたらき	電気の通り道	じしゃくのせいしつ	物の重さ
目標値	81.7	78.3	85.0	70.0	70.0	73.3	80.0	61.7	51.7	51.7
校内結果	87.6	85.8	84.8	83.5	76.1	74.1	86.2	68.1	52.1	61.3

5年の定着度調査結果

	植物の成長	動物の様子	天気の様子と気温	電気のはたらき	動物のからだのつくりと運動	月と星	物の体積と力	物の体積と温度	水のすがた	自然の中の水	物のあたまのつくり
目標値	70.0	77.5	66.7	62.5	85.0	71.3	77.5	65.0	76.7	48.3	76.7
校内結果	71.9	80.5	62.8	58.9	87.4	77.6	91.1	64.2	82.1	54.0	78.9

6年の定着度調査結果

	天気の変化	植物の発芽と成長	魚の誕生	花のつくりと実	流れる水の働き	人の誕生	ふりこのきまり	物のとけ方	電流の働き	顕微鏡の使い方
目標値	70.0	61.3	73.3	65.0	70.0	72.5	60.0	68.3	66.3	65.0
校内結果	82.1	62.2	77.4	74.8	84.2	82.1	69.7	74.4	77.9	66.2

7年の定着度調査結果

	物の燃え方	動物のからだのつくりとはたらき	植物のつくりとはたらき	生物とかんきょう	月と太陽	大地のつくりと変化	てこのはたらき	水溶液の性質	電気の利用
目標値	68.8	55.0	63.8	68.3	53.3	58.3	56.7	60.6	63.3
校内結果	62.9	57.7	62.9	70.5	47.3	60.4	60.4	56.0	71.3

8年の定着度調査結果

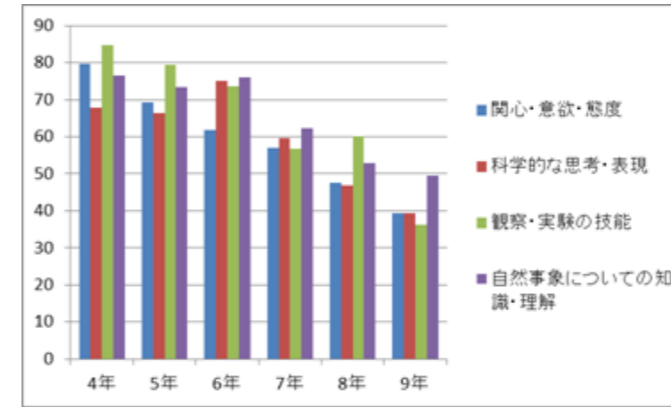
	植物のからだのつくりとはたらき	植物の分類	身のまわりの性質とその性質	気体の性質	水溶液の性質	物質の状態変化	光の性質	音の性質	力と圧力	火山	地層
目標値	57.5	60.0	66.7	55.0	65.0	48.3	40.0	57.5	45.0	68.3	48.3
校内結果	50.0	47.6	70.6	50.0	61.7	37.2	40.5	57.3	37.6	71.2	58.6

9年の定着度調査結果

	物質の成り立ち	化学変化	化学変化と物質の質量	生物と細胞	動物のからだのつくりとはたらき	動物の分類と生物の進化	電流の性質	電流と磁界	電流の正体	前線の通過と天気の変化	大気中の水蒸気の変化	日本の気象
目標値	55.0	50.0	51.7	52.5	60.8	70.0	53.3	40.0	67.5	50.0	42.5	62.5
校内結果	34.6	26.5	27.5	48.5	56.5	66.3	38.9	27.5	55.4	44.1	34.3	52.0

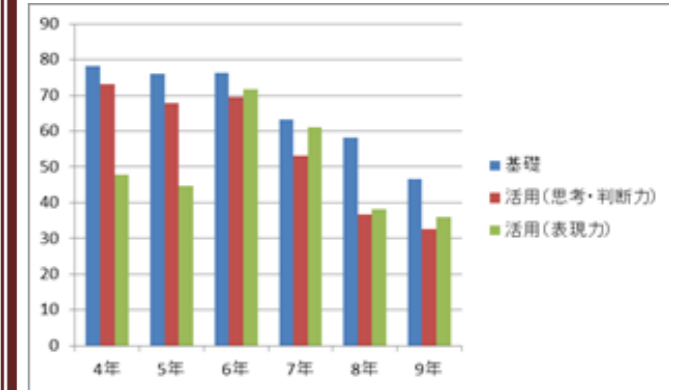
結果概要

平成29年度の課題であった、4・5年生の「科学的思考」、4年生の「自然事象についての知識・理解」、後期課程の「観察・実験の技能」は目標値を上回る結果となりました。8年生の観察・実験の技能は実験の機会を増やし、目標値を上回ることができました。目標値、区の平均正答率を全て上回ったのは、6年生と8年生でした。



各学年の観点別正答率は、合計24観点中17観点で区の平均正答率を上回りました。区の平均正答率を下回ったものは次の7観点です。4年生の「自然事象への関心・意欲・態度」、5年生の「科学的な思考・表現」「自然事象についての関心・意欲・態度」、7・8・9年生の「自然事象への関心・意欲・態度」

右は学年ごとの基礎・活用の観点からみた正答率です。前期課程は「基礎」「活用」の両方の観点において、全学年で目標値、区の平均正答率、全国平均正答率を上回っています。後期課程は、7年生は「基礎」「活用」の両方の観点において、目標値、区及び全国の平均正答率を上回っています。8年生は目標値は下回ったものの、区の平均正答率については、両方の観点で上回りました。また、9年生は両方の観点で目標値、区および全国の平均正答率を下回りました。



課題の原因と身に付けさせたい力

本校の課題は「自然事象への関心・意欲・態度」の平均正答率を上げることです。この観点の平均正答率が低かった原因には次のようなものが考えられます。

- ①児童・生徒にとって自然事象と触れ合う機会が少ないこと。
- ②既習事項が定着していないために意欲が高まらないこと。
- ③児童・生徒の興味・関心を教師が引き出せなかったこと。

そこで、授業では自然事象との出会いの場を大事にし、既習事項の定着を確実にすることで新しい単元に向かう意欲を伸ばしたいと考えます。さらに学習の導入を工夫することで児童・生徒の興味・関心を教師が引き出せるようにします。

また、全学年を通して、身近な事象と学習内容を関連付け、自然事象に対する正しい知識や理解を深めます。こうして基礎の定着を図り、思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を展開し活用したり応用したりする力を身に付けさせたいと考えます。

課題解決のための具体的な方策

「自然事象への関心・意欲・態度」を高めるために、各学年の発達段階に応じた授業改善を行います。前期課程では、観察や実験など実物を扱ったり、ICT機器を活用したりして、実感を伴いながら理解ができるようにしていきます。全ての単元を通して「自然と触れ合う体験 → 問題を見出す → 予想を立てる → 観察・実験の計画 → 見直しをもって予想する → 観察・実験をする → 結果を整理する → 考察をする → 結論を導き出す → 新しい考えをもつ」という流れで授業を行います。

後期課程では、イメージをしやすいようにするため、視聴覚教材を有効に活用しながら、授業を展開していきます。

成果指標

全学年の「自然事象への関心・意欲・態度」について、調査の目標値を上回る。
全学年の「科学的な思考・表現」について区の平均正答率を上回る。

<英語>

8年の定着度調査結果

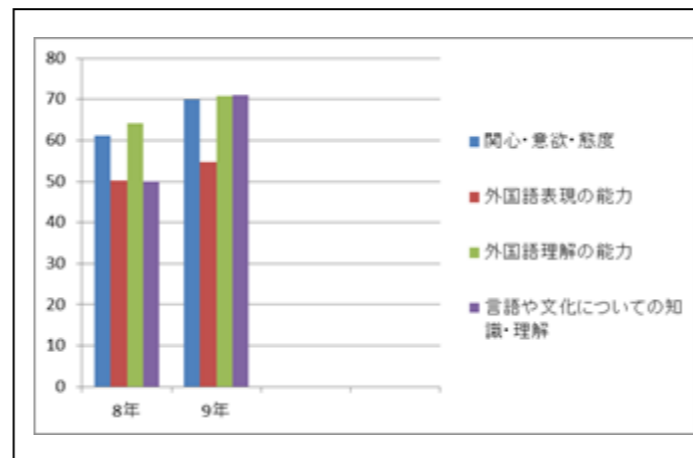
	リスニング(内 容理解)	リスニング (対話文応答)	語形・語法 知識理解	語彙の 知識理解	さまざまな 英文読み取り	長文の 読み取り	単語並べか え英作文	場面に応じ た英作文	3文以上 英作文
目標値	80.0	58.3	56.3	38.8	60.0	51.7	56.3	30.0	58.3
校内結果	90.5	59.6	57.4	38.5	66.8	59.6	61.5	26.9	70.0

9年の定着度調査結果

	リスニング(内 容理解)	リスニング (対話文応答)	語形・語法 知識理解	語彙の 知識理解	さまざまな 英文読み取り	長文の 読み取り	単語並べか え英作文	場面に応じ た英作文	3文以上 英作文
目標値	76.7	60.0	67.5	60.0	55.0	55.0	53.8	30.0	61.7
校内結果	84.2	69.9	75.5	70.8	62.9	59.7	66.6	32.2	66.3

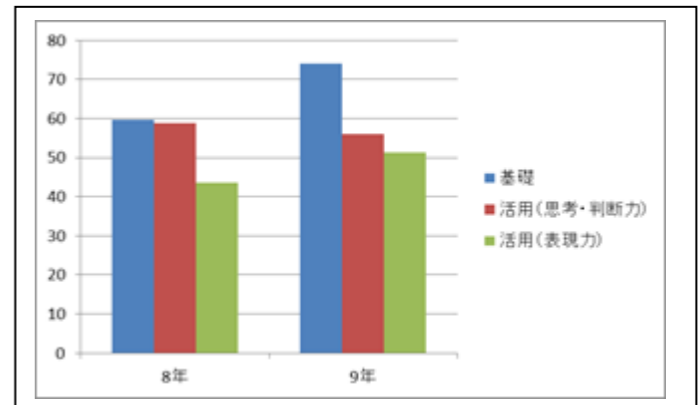
結果概要

平成29年度の8、9年生の課題であった「読むこと」「外国語表現の能力」は、目標値を大きく上回ることができました。8年生は、区の平均正答率が全て下回りました。9年生は区および全国の平均正答率を全て上回りました。



各学年の観点別正答率です。8年生は「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語表現の能力」「外国語理解への能力」は目標値を上回っています。「言語や文化についての知識・理解」の正答率がわずかに下回る結果となり、課題として挙げられます。9年生は全ての観点で目標値を大きく上回ることができました。

右は学年ごとの「基礎」「活用」の観点から見た正答率です。8年生、9年生ともに「基礎」「活用」の両方の観点において、目標値を上回っています。今後も「基礎」の定着を図ると同時に、「活用」の力を養い、高めていくことが必要です。この活用とは、上のグラフの「外国語表現の能力」と重なる部分です。8年生、9年生ともに、自分で英文を組み立てる力の育成が必要です。



課題の原因と身に付けさせたい力

得た知識を実際に活用につなげる力に課題が見られます。具体的な活用場面を生徒に意識させながら、知識を活用に結びつける機会が不足していたことが原因の1つとして考えられます。今後は、場面に応じて、得た知識を適切に選択し、活用する力を付けていきます。

また、語彙力や語形などの知識・理解の定着についても課題がみられます。文脈を意識しながら、語彙の意味を理解し、語形変化を理解するのではなく、語彙そのものを単独で学習する機会が多くなってしまったことが原因の1つであると考えられます。文脈の中や具体的な活用場面の中で、適切に語を変化させ、語彙を活用できる力を付けていきます。

課題解決のための具体的な方策

定期テストのほかに、スペリングコンテスト、リーディングテスト、パフォーマンステストを行い、総合的な力を身に付ける機会を定期的に設けます。学んだ知識を活用できるようにするために、具体的な場面を効果的に設定し、知識と活用を関連付けた指導を進めていきます。語彙力の向上についても、繰り返し練習するパターンプラクティスと覚えた語彙を適切に選択・活用することを意識できるように、場面設定の機会を授業の中で意図的に設けていきます。

成果指標

4技能の力をバランス良く伸ばし、目標値をすべて上回り、かつ半数以上の観点において、品川区の平均正答率を上回るようにする。